

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.040

田中 康夫



たなかやすお ● '56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブログ】 www.nippon-dream.com/

TPPは「主義主張」を超えた人間の問題。 今こそ国会を機能させなければならない

今週の逸品



グリーンサラダ 500円

グリーンサラダが盛られた器の形状は、実は斜面。絶妙なバランスで千切り野菜は溢れず保たれる。「大増税・TPP・放射能」で焦燥感・閉塞感に包まれている日本の実情を察知し得ぬ「鈍感力」の指導者は是非、

500円なれど一つひとつの野菜の魂が濃厚に詰まった逸品から学ぶべき。インド産のスパークリングワイン、マークイズ社のボンパドール(2500円)を始めとするインド産ワインも卓越。十二分に堪能出来る。

【ゴングル】東京都港区南青山5-9-6 セイナビル1F ☎03-3406-0464 毎月～金11:30～22:30(LO)、土12:00～22:30(LO)、日祭12:00～21:30(LO)、無休 <http://www.ghungroo-jp.com/>

illustration by Hajime Anzai

「アンボク・ハンタライノ」と自宅で叫んだら祖父の岸信介宰相から窘められた、と安倍晋三氏が述懐しています。日本を戦争に巻き込むな」と国会議事堂を国民が取り巻き、死傷者をも生んだ「60年安保」の往時、安倍氏も僕も幼稚園児でした。

40年有余の歳月を経て、国会裏手の議員会館前に11月4日午後、日の丸を掲げた国民が参集していました。「TPP参加表明反対横断幕を掲げた現場に遭遇の瞬間、僕は確信しました。TPP反対運動、これはイデオロギーを超えた新しいムーブメントなのだ、と。衆議院を構成する各党派が議院運営委員会の場に、「TPP交渉協議への参加表明」を11月12日からのAPECの場で日本政府が行うべきでないとする国会決議」を可及的速やかに共同提案する事を願う、衆議院議員の署名ムーブメントが同4日に開始。

呼び掛け人は阿部知子(社会民主党・市民連合)、稲田朋美(自由民主党・無所属の会)、小野寺五典(自由民主党・無所属の会)、城内実(国益と国民の生活を守る会)、斎藤恭則(民主党・無所属クラブ)、そして僕の6名。更に公明党、日本共産党の両党派からも加わる予定です。

「南京」を巡っては対極に位置するであろう阿部、稲田両議員が呼び掛け人に応じたのは、「60年安保」と異なり「TPP」が、「主義主張」を超えた「日本」の問題だからです。右だの左だの、上だの下だの、立ち位置を超越した「人間」の問題だからです。小村壽太郎翁を始めとする多く



の先達が血を吐く思いで努力を重ねた末、日本は1911年(明治44年)に関税自主権を回復しました。100年後の2011年(平成23年)、我が日本は、国家の根幹たる関税自主権を自ら放棄しかねぬ深刻な局面を迎えています。「脱大増税・脱TPP」の代表質問を行った11月1日の衆議院本会議で、「今こそ国会」を機能させねばなりません、「TPP交渉協議への参加表明」を是が非でも阻止しようではありませんか」と述べると期せずして、与野党を超えて拍手が議場に沸き起こりました。議会制民主主義を構成する「選良」としての一人ひとりの矜持と覚悟を示す署名は、みんなの党、たちあがれ日本を含む全9党派の代表者の下へと本誌発売の11月8日には届けられ、党派共同提案の決議案が10日の本会議に緊急上程される見込みです。

そのムーブメントの心算は、ゴングルで供されるグリーンサラダを想起させます。何の変哲も無きサラダに思えます。見映えが麗しいだけかと早とちりされるかも知れませんが、否、異なります。一つひとつの色合いも歯応えも異なる千切り野菜が集う事で、確かな味わいを醸し出しています。

無論、シークカバブを始めとする前菜、激辛ムルグミルチを始めとするカレーも秀逸。南青山へ買い物に赴いた際の安生地です。